

鈴木 寛 (兵庫教育大学教授)

音痴を治す (7)

【鼻歌ミュージシャンを使う方法】

CP-40とよく似た機能でありながらもっと安価な(¥5800)システムに「鼻歌ミュージシャン」というのが最近売り出されました(メディア・ナビゲーション&プライムシステム開発社)。これは基本的なシステムがパソコンの側にあるため、ハードはマイクだけで済みます。このソフトの売りは音符入力ができない人でも携帯電話の着メロを鼻歌で入力できるというものです。そこで、この人の声をMIDIデータに変換するという機能を音痴の人に対するピッチ・ナビゲータとして使おうとするアイデアです。

人間の声というのはアタックの部分のピッチは極めて不安定であることはずっと以前に説明したとおりです。スレスホールドという設定で音声のどの部分からピッチを検出するかをうまく設定すればかなり自分の思い通りの入力が可能です。

入力した結果は大きな音符で画面に表示されますのでそれをマウスで移動することで正しい音程に直すこともできます。この時自分が出そうとしたピッチと実際に発声されたピッチの違いを音符という形で確認できるのですが、人間が常に八長調で歌うとは限りませんので、時には入力した結果が#やbのお化けになることも予想されます。

出来れば#やbのない音を先にピアノ等で鳴らしてからその時表示されるピッチと同じ音符になるようにすればよいでしょう。

【デジタル・チューナーを使う方法】

各社から発売されているデジタル・チューナーには必ずマイクが内蔵されていますからそれに向かって発声すれば自分の出したピッチがメーターやLEDで確認できます。もちろん殆どのデジタル・チューナーは発音も出来ますから予めその音を聞いてから発声することもできます。

いずれにせよ、このような方法で成功する確率はそれほど高くはありません、何故ならば聴覚的に自分のピッチ異常を認知できないケースの場合、他者からのアドバイスの補助としてならばこのような視覚的なものも有効ですが、一人でしかも何の自覚もない人の場合には殆ど何の役にも立たないでしょう。

【デジタル・オーディオ・ソフトを使う方法】

CUBASE VSTやデジタル・Paformerなどのデジタル・オーディオ、Logic Audio等のソフトでは単音は勿論のことソングやフレーズを文字通り録音できます。この録音された結果はデジタル信号に変換されていますから、テン

ポやピッチが自由に変えられるのです。

そこで、予め録音されたお手本とそれに合わせて歌う自分の演奏と一緒に再生する機能を使って両者のピッチの違いやタイミングの違いをまず耳で確かめることができます。

ハードディスクレコーディングやMac等のSimple Soundなどのオーディオデーターを使ってもよく似たことは出来ますが、CUBASE VSTやデジタル・Paformer、Logic Audio等のソフトではチャンネルとかトラックの概念で独立した音声ブロックとして扱えますので、そのブロックだけを単独で編集ができるのです。まだどの製品もそれほど完成度は高くないのですが「音声信号をMIDI信号に変換できる」可能性もあるようです。

しかし、ここではMIDI変換の必要性はそれほど無く、むしろ耳で自分の演奏を修正することが重要なのです。

- ・自分の演奏のどこがおかしいか
- ・どうおかしいか
- ・どう直せばよいのか

この3点を耳だけの判断で行えればもう完璧に音痴ではありません。

そこで、まずは「自分の演奏のどこがおかしいか」についてのチェックです。まずおかしい場所を特定させる訓練をします。この場合小さなミスにはあまりこだわらない方がよいかも知れません。結果的におかしい場所が多すぎるとどこから手を着けたら良いのかパニックになってしまうからです。

タイミング関係のミスとピッチ関係のミスはごっちゃにしないで分けて下さい。

「どうおかしいか」についてもタイミング関係のミスとピッチ関係のミスは分けて下さい。タイミング音痴は何を歌ってもそうなるのではなく特定のパターンだけで起こるケースが多い上に割に簡単に治せるから後回しにします。

「どう直すか」というのでは「おかしい部分だけを選択して」ピッチを大まかに上げる下げるの操作をさせ、次第に正しいピッチに近づけます。

今までの技術では自分の歌声を正しいピッチに修正する方法はひたすら発声訓練を受けるしかありませんでしたが、この方法では自分の声を客観的に修正でき、内的聴覚によるイメージとの差やズレの傾向を学習することができます。